

5. 右海馬病変を有するヘルペス脳炎後遺症患者 の記憶リハビリテーション

三 村 將¹⁾ 加 藤 元一郎¹⁾ 秋 根 良 英¹⁾
 斎 藤 文 恵¹⁾ 渡 辺 良²⁾ 田 辺 英²⁾
 鹿 島 晴 雄³⁾

右海馬に主病変を有するヘルペス脳炎後の純粋健忘症候群患者に記憶リハビリテーションを試みた。

【症例】 A. O. 36歳, 右きき, 女性。大学卒のソーシャルワーカー。平成6年11月, ヘルペス脳炎発症。MRI-SPECT では右海馬の病変が特に目立ち, 神経心理検査では著明な前向健忘・逆向健忘を呈するが, 一般知能・注意・前頭葉機能は保たれ, 純粋健忘症候群の病像を呈した。

【方法】 A.O. に対する記憶リハビリテーションとして, 平成7年4月より, 次の5つのプログラムを施行した。1. 電話訓練・毎日外来に電話をかけ, 看護婦に言われた3単語をおぼえる。翌日の電話で前日の3単語を再生する(3カ月)。2. ストラテジーを用いた対連語学習・対連語の各セットをストラテジーなしで, 文章を作って, 描いた絵で, イメージ想起して, それぞれおぼえる(2週間)。3. 無意味図形の学習・無意味図形を模写しておぼえ, 翌日に前日の2図形を自由再生・再

認する(2週間)。4. 有意味図形の学習・2つの絵を模写しておぼえ, 翌日に前日おぼえた2つの絵を言葉で自由再生・再認する(2週間)。5. 人名学習訓練・職場の同僚(既知人物)10人と未知人物10人の顔写真を見て名前を言う(写真による手がかり再生) (継続中)。

【結果】 聴覚的言語学習課題である電話訓練や言語的ストラテジーを用いた対連語学習では訓練に伴い, 著明に成績が改善した。これに対して, 単語学習に際して絵やイメージといった非言語的(視覚的)ストラテジーは援用できなかった。その反面, 無意味図形の記憶は予想外に良好であり, 視覚的記憶心像を視覚的に処理することはある程度可能と思われた。一方, 有意味図形(絵)を単語で再生したり, 顔写真から名前を言うことは困難であった。以上の結果からは, A. O. においては単語とその視覚心像とを結び付けることが最も不得意と思われ, 日常生活上では人の顔と名前がつながらないことが特徴的であった。

1) 東京歯科大学市川総合病院精神神経科

2) 横浜市立市民病院神経内科

3) 慶應義塾大学医学部精神神経科